

県境は変わる

●地図研究家 今尾恵介

兵庫県相生市から岡山県岡山市を結ぶJR赤穂線には「備前福河」という駅がある。備前といえは岡山県南東部の旧国名として知られているが、駅の所在地は兵庫県赤穂市。福河とは岡山県和气郡の旧村名で、明治期の町村制施行時に福浦・寒河の2村が合併した際に1字ずつ採った合成地名である。福河村は「昭和の大合併」で岡山県日生町の一部となる（**図1**）が、駅のある福浦地区では、以前から赤穂市との結びつきが強いことから兵庫県への越県合併の意向があった。

ところが生活がかかった漁場などが関係して紛糾する。問題はくすぶりながらも、ひとまず福河村全域が日生町に合併したが、その後も兵庫・岡山両県や自治省（現総務省）も入って調整が続き、昭和38(1963)年に福浦地区（内陸の一部を除く）が兵庫県赤穂市に越県合併した（**図2**）。地図帳ではわずか3ミリほどの境界の移動だが、『赤穂市史』を読むと、当事者たちにとっては死活問題であったことがよくわかる。念のため地名辞典で福浦を調べてみたら、室町時代には播磨国赤穂郡で、江戸期には備前国和气郡だというから、400年以上ぶりの「復帰」ではあるようだが。ちなみに市内でも福浦だけは電力供給が中国電力で関西電力より電気代が安いそうだ。これも岡山県時代の名残だろうか。

「平成の大合併」で全国唯一の越県合併となったのが、長野県南西端の旧山口村（**図3**）である。

（いまお けいすけ）/1959年生まれ。

出版社勤務を経て地図・地名分野の執筆を始める。著書に「地図帳の深読み」シリーズ（帝国書院）など多数。日本地図センター客員研究員。日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。

「昭和の大合併」以前は岐阜県中津川市に接して山口・神坂の2村があったが、中山道の宿場として有名な馬籠は神坂村の所属。同村南部では長野県側のラジオが山に遮られて聴こえず、新聞も1日遅れで不便なため岐阜県側への合併を望んでいた。ところが馬籠地区は残留を望む。村長のリコール運動なども起きて紛糾、結局は岸信介首相（当時）の裁定にもつれ込んだ末、昭和33(1958)年に村は南北に分割、馬籠地区は山口村に編入された。越県合併問題は平成に再燃、当時の田中康夫長野県知事は「馬籠の残留」を主張したが、結局は平成17(2005)年に山口村全体が中津川市へ編入されている（**図4**）。もちろん「信州の馬籠宿」は今も昔も変わらないのだが。

越県合併は昭和30年代に目立ち、印象的なのが福井県大野郡石徹白村の岐阜県郡上郡白鳥町（現郡上市白鳥町）への編入。石徹白村はかつて郡上藩領だったこともあり白鳥町とは婚姻関係が伝統的に多く、冬は若者の多くが岐阜県に出稼ぎに出るなど関係が深かった。特に大野方面の交通は雪で途絶することもあり、福井県の反対を押し切って昭和33年に越県合併を実現させている。

他府県の事例を調べても、やはりどこも「苦難の道」を抜けた末の解決だった。ましてや外国との境界であればなおさらだろう。一筋縄でいかないのは理解できるが、各地の境界をめぐる争いが平和裏に収束することを祈るばかりである。



図1 昭和37(1962)年の岡山県と兵庫県の県境〈部分〉(昭和37年発行『小学校社会科地図帳』p.16)



図2 現在の岡山県と兵庫県の県境〈部分〉(令和7年発行『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.42)



図3 平成16(2004)年の岐阜県と長野県の県境〈部分〉(平成17年発行『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.32) グレーの丸印は村、黒丸はおもな字・旧市町村の記号



図4 現在の岐阜県と長野県の県境〈部分〉(令和7年発行『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.58)